

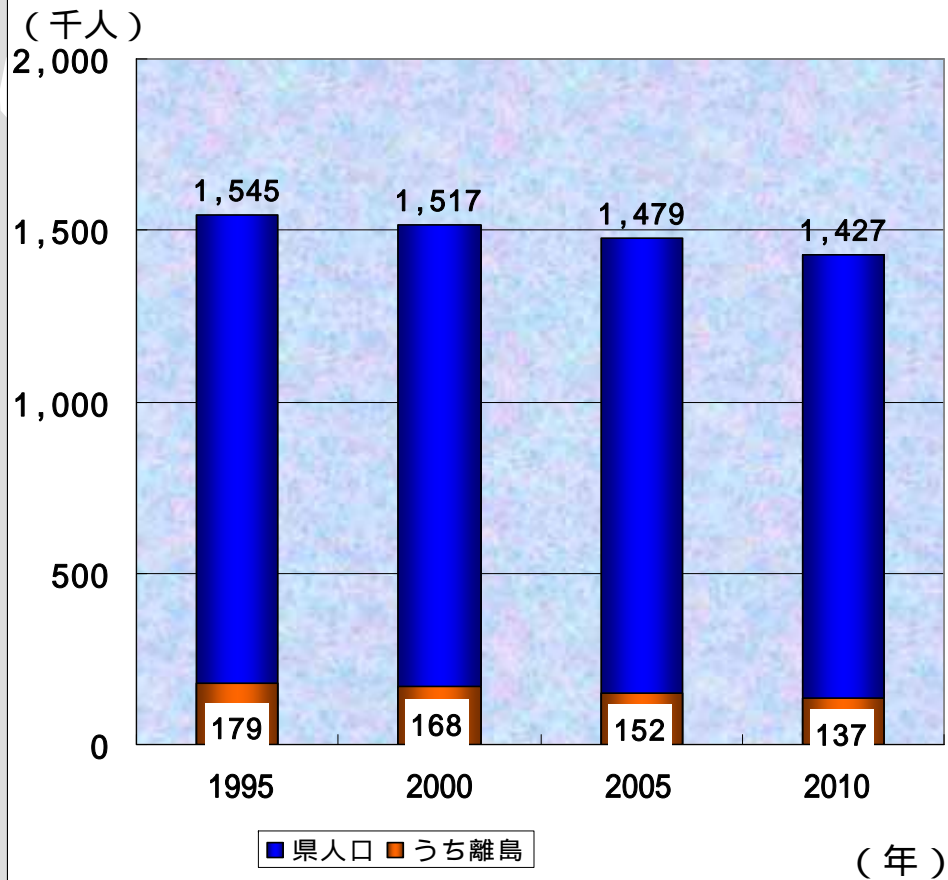


高齢化社会と少子化対策について

長 崎 県

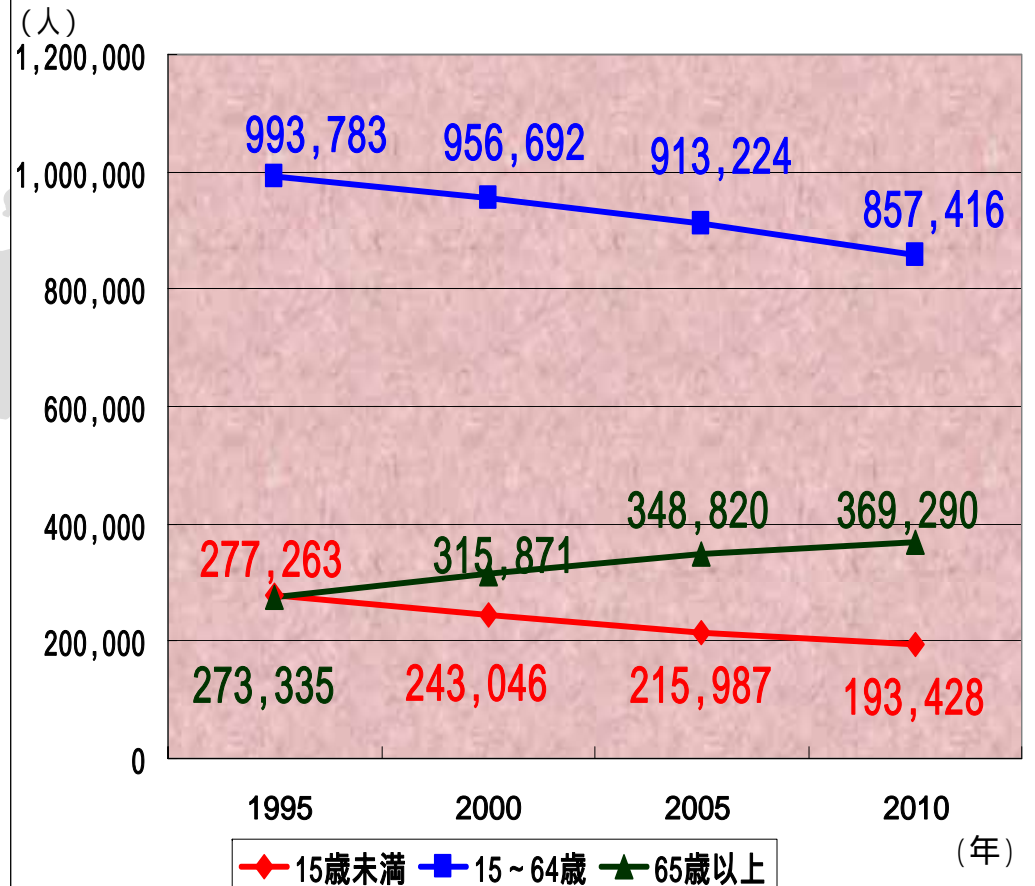
長崎県の人口動態

本県の総人口の推移



(出典) 総務省「国勢調査」

年齢3区分の推移



(出典) 「国勢調査」

長崎県の高齢化と少子化の現状と要因

現状

(2010年)

総人口 1,427千人
(15年間で 11.8万人、 7.6%)
(うち離島部は、 4.2万人、 23.5%)

高齢化率 26.0% (全国16位)
(うち離島部の高齢化率 2010年 32.2%)

出生数 12,004人 (15年間で 18.8%)

出生率 8.5 (15年間で 1.1ポイント)

合計特殊出生率
2010年 1.61 全国6位 (全国1.39)

要因

平均寿命の伸長に伴う死亡率の低下

未婚化・晩婚化・晩産化

夫婦の出生力の低下

少子化による生産年齢人口の急減

離島地域を中心とした若年層人口の
県外流出

⇒ **今後、本県では自然減が社会減を上回り、少子高齢化がさらに進展する。**

長崎県の高齢者対策の体系

1. 長崎県の現状(2010年)
 - 65歳以上の高齢者数 36万9千人
 - 高齢化率: 26%(全国16位)
2. 高齢化の要因
 - 少子高齢化による生産年齢人口の急減や死亡率の低下による平均寿命の延伸
 - 離島地域を中心とした若年層人口の県外流失

(1) 元気高齢者対策

健康な生活づくり

介護予防の推進

地域支援事業の展開

安全・安心で生きがいのある社会づくり

生涯学習等の推進

社会参加の支援

就業機会の拡充

安心できる生活環境の整備

助け合い活動の推進

福祉施設の整備



(2) 虚弱高齢者対策

地域包括ケアの推進

在宅における医療との連携

生活支援体制の整備

認知症高齢者対策の推進

安全安心な高齢者の住まいの整備

高齢者の権利擁護



少子高齢化と地域コミュニティの再生

少子高齢化の進行



地域コミュニティ崩壊の危機

地域毎の個別の課題に対応する
県の各分野ごとの支援メニュー

高齢者の
元気づくり

高齢者等見守り体制構築事業

(高齢者等の「見守りネットワーク」構築を推進する市町への助成)

くらしホッと安全・安心事業

(高齢者等の消費者トラブル等の未然防止のための「地域見守り隊」による家庭訪問等)

買い物弱者支援システム構築モデル事業

(高齢者等の買い物弱者に対し、買い物を代行したり、自宅まで届けるサービスを民間団体が県の委託事業として実施)

地域支え合い(I)CTモデル事業

(各家庭のテレビとインターネットを接続し、高齢者でも容易に地域の情報サービスが利用できる仕組みを構築)

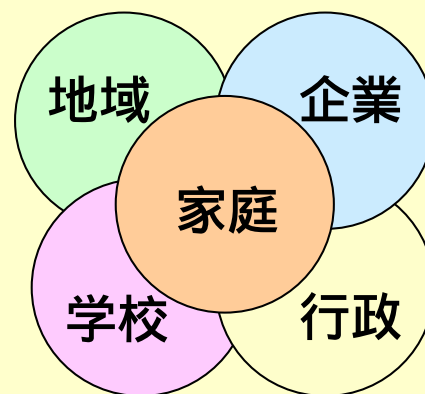
元気高齢者の社会参加による生涯現役の社会づくり

(元気な高齢者が「地域社会の主役」として活躍できる仕組みをつくり、高齢者の就労や生きがい・健康づくりを促進)

長崎県の少子化対策

取組の方向性

「長崎県子育て条例」を基本に、安心して子どもを生み育てることができ、子どもが生まれてきてよかったと感じる社会を実現するため、県・市町・地域が連携し、子どもが生まれてから社会に巣立つまでの一貫した支援等、県民総ぐるみの子育て支援を推進



県民総ぐるみの子育て支援

「ココロねっこ運動」

子どもたちの心の根っこを育てるために大人のあり方を見直し、子どもの健やかな成長を促すための活動に取り組む県民運動

- 推奨する活動例
- ・あいさつ・声かけ運動
 - ・家族の団らんの機会を設ける
「家庭の日」の普及・促進
 - ・学校・PTA・地域行事への参加 など



子育てまちづくり

家庭・学校・地域社会
県、市町、団体や企業による活動

「ココロねっこ運動」

ココロねっこ運動
登録団体数
4,208団体
(2012年3月末現在)

長崎県の少子化対策

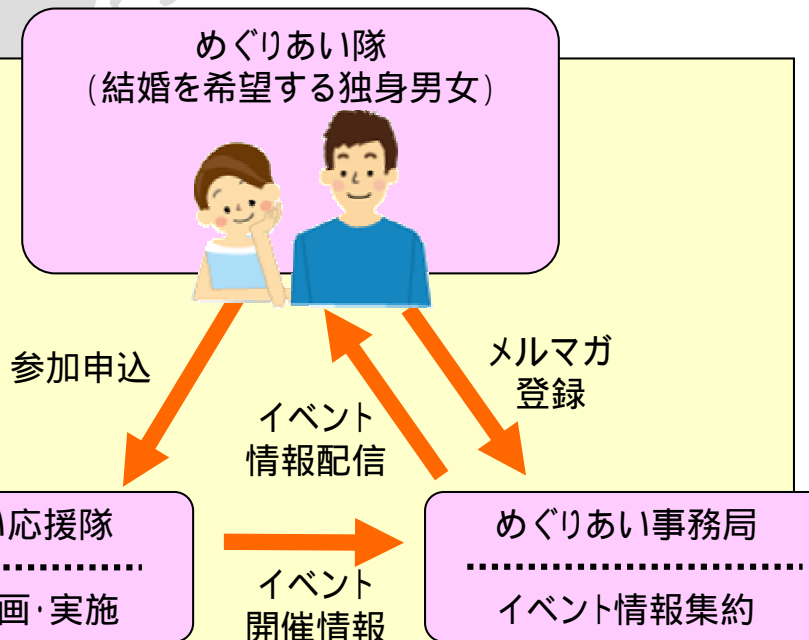
ながさきめぐりあい

結婚を希望する独身男女の結婚しない理由
第1位 適切な相手にめぐりあわない 58.5%
(長崎県少子化対策基礎調査)



結婚を希望する独身男女に、企業等の協力を得て、
出会いの場を提供し、イベントの情報をホームページや
メールマガジンにより提供

<2011年度実績>
イベント開催数312回 参加者数5,675人
イベントにおけるカップル数 502組



ワーク・ライフ・バランスの推進

ながさき子育て支援表彰



「子育てと仕事の両立支援企業表彰」
育児中の従業員のための短時間勤務制度など、
子育てと仕事の両立に取り組む企業を表彰

ながさき子育て応援の店



子育てを支援する企業・店舗を
子育て協賛企業として募集・登録し、
その活動を広報、支援する

<2012年7月末現在>
登録2,572店舗

長崎県の少子化対策

家庭教育支援

家庭教育支援プログラム

ミニゲームやグループ学習などにより、親自身が主体的に参加することで親の子育て力を向上させ、親同士のつながりを深める講座を実施



訪問型家庭教育支援

学校や地域との関係が希薄な家庭を、地域の子育て経験者や専門家が訪問し、相談、支援を行う

児童虐待ゼロプロジェクト

妊娠期から子育てを支えるために、産科医療機関と行政が情報を共有し、連携による切れ目のない支援を行い、児童虐待の予防に努める



発達障害児への支援

発達障害児の困難さを軽減し、社会的な自立を目指せるよう、また子育ての負担を軽減できるよう、保健・医療・福祉・教育が連携して、地域における総合的な支援体制の整備を推進

困難を抱える子ども・若者支援

不登校、ひきこもり、ニート等、社会生活を円滑に営む上で困難を抱える若者に対する総合相談窓口の設置および各関係機関で問題意識と情報の共有等、総合的な対策を実施



雨森芳洲と朝鮮通信使について

雨森芳洲と朝鮮通信使

雨森芳洲(あめのもり・ほうしゅう)とは

江戸時代、対馬藩に仕えた儒学者で、朝鮮国との外交にあたり、日本と朝鮮国との交流に尽力した。

「互いに欺かず、争わず、真実をもって交わることが本当の交流」とする「誠信交隣」の外交精神は現代にも通じる理念

1990年に、韓国の盧泰愚大統領が来日した際、日本の国会での演説の際に、雨森芳洲の名を挙げて紹介



雨森芳洲 肖像画

朝鮮通信使の来日(1607~1811年)

江戸時代に計12回来日

対馬は、朝鮮通信使の窓口としての役割を果たす。

対馬は、朝鮮国との交流・交易を通して繁栄。



朝鮮通信使行列の絵図(一部)

芳洲外交塾の実施

芳洲外交塾

芳洲外交塾の実施（長崎県主催）

1995～2000年（1～6回）

新芳洲外交塾の実施（対馬6町（現対馬市）主催）

2001～2003年（1～3回）

【芳洲外交塾の目的】

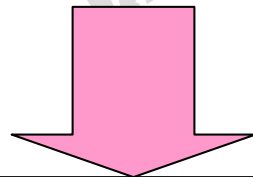
雨森芳洲の外交精神を学び、実際に韓国の人と意見交換して、これからの国際交流のあり方を学び、21世紀の国際交流のリーダーを育成。

【参加者の実績】

総数：489名（日本人：249名 韓国人：240名）



来年度



日本と韓国の若者たちを対象とした国際理解・交流の場を設け、これからの**日韓交流を担う人材の育成**を図るための取組みを新たに構築

対馬の日韓交流イベント

対馬における主な日韓交流事業



対馬アリラン祭り



対馬ちんぐ音楽祭



国境マラソンIN対馬



ご清聴ありがとうございました